

# 水土里レポート

投稿月日	令和5年7月10日(月)
タイトル	令和5年度資源向上活動(植栽等)について
水土里レポーター名	小野寺 孝 — 北海道ふるさと・水と土指導員(北海道当麻町)

多面的機能支払交付金当麻中央西区活動組織(認定農用地面積1,000ha:代表小林壽男)では令和5年7月9日(日曜日)午前8時(気温27℃)から1時間かけて、参加者45名で550mの道路沿にマリーゴールドを約3,000株移植しました。ちなみに本日の最高気温**32℃**でした。



地域の駐在さんも参加



猛暑の中一株・一株、丁寧に移植しました



作業終了後、舟山副代表より令和4年度当麻中央西区活動報告があり、今年度も全国的な異常気象(線状降水帯)に備えて田んぼダム、鳥獣被害防止対策(アライグマ、カラス)の説明がありました。

その後、北海道警察旭川東警察署 宇園別駐在所林所長より、自転車乗車時のヘルメット着用と特殊詐欺の注意喚起がありました。



注意喚起をする林所長



2週間後には花が咲き揃うでしょう!

真剣に説明を聞く参加者たち



小林代表(右)と舟山副代表(左)

昨今、日本本各地で大雨による被害がニュースで取り上げられており、大雨が降れば決して他人事ではありません。又、近年は線状降水帯では時間雨量30m/m以上の降雨、大雨が降れば育てた作物や農地を守るために万が一の備えは必要であり、水田の落水口を整備し、有効な取り組み(田んぼダム)と当麻中央西区活動組織は考えています。

鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化(アライグマ駆除)も我が組織の重要な取り組みです。

アライグマは農林水産業、生態系、生活環境、財産等への被害をもたらすため特定外来生物に指定されており、食性の幅が広く、高い繁殖性を持つため北海道でも大きな社会問題となり、当麻中央西区活動組織では箱ワナを貸出し、アライグマ被害防止のため駆除する取り組みも実施しています。

◇◇舟山仁志副代表のことばより◇◇